

【 杵 築 市 】

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語

	全体	学習指導要領の内容				
		言葉の特徴や 使い方に 関する 事項	情報の扱い方 に関する 事項	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと
杵築市	61	70.1	57.5	65.5	38.8	64.4
大分県	63	69.9	53.6	66.9	45.4	68.5
全国	60.9	66.8	52.3	65.8	45.7	65.9

◇全 13 問（選択式 9 問・短答式 2 問・記述式 2 問）であり，教科全体では全国平均を 0.1 ポイント上回った。短答・記述式問題形式については全国正答率 58.8%であるのに対して杵築市 61.7%と全国平均を上回っている。

□「言葉の特徴や使い方にに関する事項」領域の「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」（知識・技能）は全国平均を 6.7 ポイント上回っている。

□「情報の扱い方にに関する事項」領域の「情報と情報との関係について理解する」（知識・技能）は全国平均を 10.3 ポイント上回っている。

■「書くこと」領域は全国平均を 6.9 ポイント下回っており，中でも「文章全体の構成や展開を考える」（思考・判断・表現）は全国平均を 10.2 ポイント下回っている。

■「読むこと」領域は全国平均を 1.5 ポイント下回っており，中でも「目的に応じて必要な情報を見つけることができる」（思考・判断・表現）は全国平均を 4.9 ポイント下回っている。

■正答数 3 問以下（正答率 20%未満）の割合は全国値より高い。（市：9.1% 全国：8.8%）

□短答式・記述式問題における無回答率は全国値より低い。短答式で 1.9 ポイント，記述式で 3.7 ポイント無回答率が低く，自分の考えを持って粘り強く取り組んでいる。また，全 13 問中 8 問で無回答率が全国値より低かった。

2 具体的な改善方策

小学校：国語

- ① 「漢字を文の中で正しく使う」ことについては，国語辞典や漢字辞典を活用して意味を調べたり同音異義語を使い分けた短文作りをしたりする学習などを取り入れ，タブレット（AI ドリルや漢字アプリ等）で既習の漢字を繰り返し学習し習得を図った結果，良好な結果を得られた。今後も継続して漢字の持つ意味を考えながら使ったり，同音異義語に注意して使ったりする習慣を付ける。言語能力の育成は必須であり，読書活動の推進も図っていく。
- ② 「書くこと」については，自分の考えを言語化する活動を取り入れ，根拠をもとに説明させる等，表現させる学習を積み重ねてきた。自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するためには，引用する部分を選んだ意図や目的について交流し，また，原文を正確に引用することや引用した部分と自分の考えとの関係を明確にするなど，話し合いの質の向上を図っていく。
- ③ 「読むこと」については，書き手の述べたいことを知るために読む，読み手の知りたいことを調べるために読むなどの目的に応じて，文章の中から必要な情報を取捨選択する等，意図をもって読む指導が必要である。
- ④ 課題が見られる問題については，類似した問題を用いながら補充学習や家庭学習で取り組み，定着を図っていく。

【 杵 築 市 】

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数

	全体	学習指導要領の領域				
		数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
杵築市	57	61.9	53.3	78.9	39.2	49.0
大分県	58	62.3	56.5	77.9	39.1	50.6
全国	56.4	61.1	55.3	78.1	41.1	48.6

◇全 16 問（選択式 5 問・短答式 8 問・記述式 3 問）であり，教科全体では全国平均を 0.6 ポイント上回った。特に，記述式で全国正答率 48.5%に対して杵築市 53.1%と全国平均を 4.6 ポイント上回った。

□「数と計算」領域の「異分母の分数の大小を判断し，その理由を数や言葉を用いて記述する」（思考・判断・表現）は全国平均を 10.9 ポイント上回っている。

□「データの活用」領域の「集計の誤りのある項目を見つけ，根拠を表の中の数と言葉を用いて説明する」（思考・判断表現）は全国平均を 7.2 ポイント上回っている。

■「図形」の領域は全国平均を 2.0 ポイント下回っており，中でも「直方体の箱の形を構成する面について理解する」（知識・技能）は全国平均を 7.0 ポイント下回っている。

■「変化と関係」の領域は全国平均を 1.9 ポイント下回った。中でも「百分率で表された割合と比較量から，基準量を求める」（知識・技能）は全国平均を 4.0 ポイント下回っている。

□正答数 3 問以下（正答率 20 パーセント未満）の割合は全国値より低い。（市：8% 全国：10.1%）

□短答式・記述式問題における無回答率は全国値より低い。短答式で 0.3 ポイント，記述式で 0.1 ポイント無回答率が低く，また，全 16 問中 10 問で無回答率が全国値より低かった。

2 具体的な改善方策

小学校：算数

- ① 「数と計算」，「データの活用」については「問題場面を図や式に表す」ための指導の充実や，「グループでの話し合い活動」に継続して取り組んできたことが効果的であったと考える。引き続き校内研究等により指導の工夫を図っていく。
- ② 「図形」領域では，立方体の体積の計算による求め方について理解できている。半面，直方体は 3 種類の長方形が 2 組で構成されていることへの理解が不十分であったと考えられる。図形領域では，紙の箱を実際に分解させたり，1 人 1 台端末や，大型提示装置を有効活用し，視覚的に図形の関係を捉えさせたりするなどして指導していく。
- ③ 「変化と関係」領域では，基準量，比較量，割合の数量の関係を把握することや，百分率を用いた表し方の理解に課題があると考えられる。（基準量）×（割合）＝（比較量）などの言葉の式だけでなく，数直線などの図を用いて，児童が自ら基準量，比較量，割合を書き込み，それらの数量の関係を捉えることができるように指導することが大切である。
- ④ 課題が見られる問題については，類似した問題を用いながら補充学習や家庭学習で取り組む。また，関連する領域について学習する際に既習事項の復習を行うことにより定着を図っていく。

【 杵 築 市 】

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析

中学校：国語

	全体	学習指導要領の内容				
		言葉の特徴や使い 方に関する事項	情報の扱い方に 関する事項	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと
杵築市	65	59.0	70.7	66.3	73.8	65.2
大分県	64	62.3	68.3	64.1	67.0	60.0
全国	63.9	63.0	70.4	63.9	67.4	59.7

◇全 15 問（選択式 9 問・短答式 3 問・記述式 3 問）であり、教科全体では全国平均を 1.1 ポイント上回った。問題形式については、選択式、短答式、記述式のいずれも全国平均を上回っている。中でも記述式問題については全国正答率 45.5%であるのに対して杵築市 52.7%であった。

□「話すこと・聞くこと」領域の「必要に応じて質問しながら話の内容を捉える」（思考・判断・表現）は全国平均を 8.3 ポイント上回っている。

□「読むこと」領域の「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする」（思考・判断・表現）は全国平均を 8.4 ポイント上回っている。

■「言葉の特徴や使い方に関する事項」領域は全国平均を 4.0 ポイント下回っており、中でも「語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉える」（知識・技能）で全国平均を 4.9 ポイント、「単語の種別について理解している」（知識・技能）で全国平均を 9.0 ポイント下回っている。

□正答数 3 問以下（正答率 20 パーセント未満）の割合は全国値より低い。（市：3.7% 全国：5.0%）

□14 問中 11 問で、無解答率が全国値より低い。また、そのうち無回答率 0%が 7 問であった。

2 具体的な改善方策

中学校：国語

- ① 短答式・記述式問題については、各学校の授業改善による思考ツールの活用や、学び合いの場の設定が効果的であったと考えられる。今後も継続して取り組んでいく。
- ② 「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、自立語と付属語を類別することはできているが、助詞と助動詞を類別すること、及び語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題があると考えられる。単語の類別については、日常の言語活動の中で使用されている例を取り上げ、生徒が実感をもって理解できるように指導すること、また、語句の文脈上の意味を正確に捉えるためには、辞書を活用して語句の意味や使い方に対する認識を深めることが大切である。
- ③ 「書くこと」領域においては、自分の考えを言語化する活動を取り入れ、根拠をもとに説明させる等、表現させる学習を積み重ねてきた。その際に、接続する語句や指示する語句を用いるなどして、伝えたい事柄とその根拠とを適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりして書くよう引き続き指導する必要がある。
- ④ 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や週末課題（家庭学習）で取り組み、定着を図っていく。

【 杵 築 市 】

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1 調査結果の分析

中学校：数学

	全体	学習指導要領の領域			
		数と式	図形	関数	データの活用
杵築市	58	67.4	43.7	57.4	59.2
大分県	55	65.4	43.5	55.2	52.8
全国	57.0	67.8	48.7	54.8	53.5

- ◇全 16 問（選択式 3 問・短答式 9 問・記述式 4 問）であり，教科全体では全国平均を 1.0 ポイント上回った。問題形式については，選択式，短答式，記述式のいずれも全国平均を上回っている。
- 「関数」領域の「反比例の関係を表す表の特徴を捉えて X の値に対応する Y の値を求める」（知識・技能）は全国平均を 6.7 ポイント上回っている。
- 「データの活用」領域の「累積度数の域を理解している」（知識・技能）は全国平均を 11.2 ポイント上回っている。
- 「数と式」領域は全国平均を 0.4 ポイント下回っており，中でも「正の数と負の数を用いて変化や状況を表す」（知識・技能）では全国平均を 7.1 ポイント下回っている。
- 「図形」領域は全国平均を 5.0 ポイント下回っており，中でも「筋道立てて考え，証明することができる」（思考・判断・表現）では全国平均を 9.2 ポイント下回っている。
- 正答数 3 問以下（正答率 20 パーセント未満）の割合は全国値より高い。（市：15.0％ 全国：13.9％）
- 16 問中 13 問で，無解答率が全国値より低い。

2 具体的な改善方策

中学校：数学

- ① 「データの活用」については，データを読み取った上で，事柄が成り立つ理由を考える活動（ペア・グループ活動）が効果的であったと考えられる。引き続き 1 人 1 台端末や，大型提示装置を有効活用し指導していく。
- ② 「数と式」については，最高気温 5℃と最低気温-4℃の気温差を「1℃」と回答した誤りが多かった。正の数と負の数を用いた計算は必須であり，過去の振り返りを扱いながら指導していく。
- ③ 「図形」については，角度を捉えることについてはできているものの，筋道立てて考え，証明することに課題があると考えられる。生徒が証明を回答した後に，振り返る活動を取り入れ，その際に，筋道立てて説明できているか，根拠は明確であるか，記号や用語の使い方は適切であるか等の視点で，証明を評価・改善できるよう指導することが必要である。
- ④ 上記の改善方策や 1 人 1 台端末の活用を取り入れた授業について，校内研究会や杵築市教育課程研究協議会の授業研究会において公開し，多くの教員が参観することによって，どの学校でも全ての生徒が考え表現する授業を実施できることを目指していく。
- ⑤ 課題が見られる問題については，類似した問題を用いながら補充学習や週末課題（家庭学習）で取り組む。また，関連する領域について学習する際に既習事項の復習を行うことにより定着を図っていく。

【 杵 築 市 】

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：英語）

1 調査結果の分析

中学校：英語

	全体 IRTスコア	領域別の正答率		
		聞くこと	読むこと	書くこと
杵築市	490	57.1	60.0	41.4
大分県	484	59.0	57.5	39.8
全国	499	62.8	60.0	43.1

◇公開問題全 16 問（選択式 10 問・短答式/口述式 2 問・記述式/口述式 4 問）であり，教科全体では全国平均 IRT スコアを 9 ポイント下回った。

□短答式/口述式問題では全国正答率 55.8%に対して杵築市 57.5%と，全国平均を上回っている。

■「聞くこと」領域全体では，全国値を 5.7 ポイント下回った。中でも，共通公開問題「社会的な話題について話を聞き，要点を捉える」（思考・判断・表現）では，全国値を 11.5 ポイント下回っている。

■「書くこと」領域全体では，全国値を 1.7 ポイント下回った。中でも共通公開問題「社会的な話題について短い文章を読み，要点を捉え，考えとその理由を書く」（思考・判断・表現）では全国値を 5.3 ポイント下回った。

□正答率 25%以下の生徒の割合が全国と比較し 0.4 ポイント低い。

□公開問題 16 問中 12 問で，無解答率が全国値より低い。また，そのうち無回答率 0%が 7 問であった。

2 具体的な改善方策

中学校：英語

- ① 「聞くこと」の領域について，情報を聞き取ることができるようにするためには，授業の中で，聞くことを通して理解する活動を繰り返し行うことが重要である。教師や友人の話す英語を聞く活動や，ALTやALTコーディネーターの有効活用による学習活動を継続し，聞き取った要点をペアやグループで伝え合ったり，学級全体で確認したりする活動が必要である。
- ② 「読むこと」領域で，文章の概要を捉えさせるには，個人では気づかない視点を得るために，生徒同士で検討するペア・グループ活動の場面を設定する。その際，1人1台端末や，大型提示装置を有効活用する。
- ③ 「書くこと」領域で，正確に書くことができるようにするためには，既習の文法事項などを適切に使い分けて表現することが重要である。本市生徒の英語愛好度は全国値より高く，表現活動にも意欲的であることから，自分の考えや調べたことを英語で書く言語活動を継続的・計画的に取り入れる。その上で，基本的な語や文法事項等を理解して文章を書くことができるよう指導する。
- ④ 小中の教員が参加する授業研究会により，小学校の英語教育の学びを中学校につなげることが大切である。
- ⑤ 課題が見られる問題については，類似した問題を用いながら補充学習や週末課題（家庭学習）で取り組み，定着を図る。